

文部科学省選定

●女性解放

丸岡秀子

ひとすじの道

DVD

上映時間80分



ナレーション 櫻山文枝

今なお生き続ける丸岡秀子の精神

女性の社会的地位の低かった時代に、常に弱い立場にある人々に温かいまなざしを向け、自ら考え、発言し、行動を起こすことの大切さを訴えてきた丸岡秀子の生涯を描きます。

インタビュー

- 小林 節夫
- 岩崎 清吾
- 福沢 恵子
- 米田 佐代子
- 山本 茂雄
- 石井 龍一
- 渋谷 忠男
- 木村 康子
- 藤沢 セツ子
- 千野 喜和子

読むこと
書くこと
行うこと



企画・製作

「丸岡秀子ひとすじの道」

製作委員会

製作

長野映研

石井 修吾

プロデューサー

岡野 和夫

監督・脚本

根本 銀二

撮影

太田 久道

照明

佐熊 愼一

編集

野口 清人

音楽

石井 貴

演出助手

小林 悟

出演

戸塚 亮

子役

小林 藍

ナレーター

宮島梨帆

ナレーター

佐藤ちさと

ナレーター

櫻山 文枝



長野高等女学校入学の秀子



◆ あらすじ

丸岡秀子は、1903年浅間山の麓、長野県南佐久の酒造家の長女として生まれた。しかし、生後10ヶ月で生母と死別、母方の祖父母に預けられた。少女期は農家の祖父母を助け“土を耕す”労働の日々を体験。生きる原点に「農」の意義を深く刻む。

やがて長野高等女学校へ進み、雑誌「白樺」等で自立と主体性、人間の尊重を謳う大正デモクラシーにふれ、自分の中に新しい息吹を感じる。

教師になり、そのかたわら文筆活動を始める。結婚、長女をもうけるが、夫は急逝してしまう。残された女兒は10ヶ月、その時秀子は25歳。

その後、産業組合中央会へ就職。全国の農村の深刻な状況を知るにつけ、自らすすんで全国の農村を調査し、あまりにも過酷でみじめな農村女性の実態を分析した「日本農村婦人問題」を書き上げた。人間尊重の思想が滲み出た名著となった。

戦後には、農協婦人部、母親大会、教研集会などで女性の生き方を問い続けた。そして、「ひとすじの道」三部作をはじめ、多くの著作を世に送る。「読むこと書くこと行うこと」は今もなお生きている。



文部科学省選定

丸岡秀子 ひとすじの道

● 女性解放

上映時間80分

教材上映用DVD

¥50,000(税込)

教材上映用DVDは、学校・図書室・公民館・視聴覚センター・公共施設等での、上映・貸出・回覧に限定されます。

丸岡秀子 語録

- わたしたちは知っている。危機の時代には、まず教育が、まっさきに弓矢的になるということ。だからこそ、婦人は母親の名において、平和のためのあらゆる努力を連帯し、対立や紛争は、すべて平和的解決によるべきこと、話し合いと相互理解のための努力を持続すること。その導きの星は、生命の尊さ、愛と家族の大事さを母の名において宣言し、実践し、つらぬき通すことであることは、いうまでもない。
- 民主主義とは、異を唱えることである。だからこそ、少数意見が大切にされる、という原理を明らかにした人がいた。近代を切り開いた先駆者の思想は、こういうところに立っていたのだと思う。
- さまざまな集まりの前に、せめて憲法前文でも読んでらどうかしら、と思いますね。憲法があるから、スポーツもたのしめる、それがしだいに大丈夫ではなくなっている世のなかですものね。だんだん変になっていくときに、憲法を精神をしっかりと生活にとりこむことだと思ふのです。
- 高いもの、大きいもの、早いものが尊いと思わされてきました。人間ではお金のもの、学歴のあるもの、肩書のあるもの、地位の高いもの、それが、尊いとされるようになってまいりました。生命で言えば若いものほど尊い、じょうぶなものほど尊ばれ、幼いもの、年老いたものは無視されやすい、という傾向が出てきたのではないか、というふうに思われてならないのです。

発売元 有限会社長野映研 長野市柳町45 TEL 026-232-1226 FAX 026-232-8387